

国語 第3学年 わたしと小鳥とすずと / 夕日がせなかをおしてくる

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の9月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

詩の言葉を根拠に想像した様子や感じ方を確かめる。作品を比べる際も各作品の表現を読み、同じ教訓にまとめない。単元の終わりに残すのは、着目した言葉の箇所、想像した様子、そう考えた理由、交流して付け加えた考え。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)エ	エ 登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。

単元の目標

内容のまとまりや構成を意識して音読できる。詩の言葉を基に様子や気持ちを想像し、感じたことの理由を捉えられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①内容のまとまりや構成を意識して音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）	①「読むこと」において、詩の言葉を基に様子や気持ちを想像し、感じたことの理由を捉えている。（C(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全2時間（読②）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○詩を音読して響きを確認する。言葉と想像を対応させる。	学習状況を見て支援する。
	2 （本時）	○根拠を示して考えを比べる。考えた様子が伝わるように音読する。	知①・思①（発言・学習記録）

本時の案

本時の目標：詩の言葉を基に様子や気持ちを想像し、感じたことの理由を捉えられる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「どの言葉から、どんな様子や気持ちを想像しましたか」 【めあて】詩の言葉を根拠に想像した様子や感じ方を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ物を見ても言葉の表し方で印象が違う。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「どの言葉から、どんな様子や気持ちを想像しましたか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを見せて説明し、聞き手は分かったところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 選んだ言葉の響きが伝わるよう、区切りや間を変えて音読し、聞き手が感じた様子を伝える。読む前後の感想を比べ、音読して気付いたことをメモに足す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ物を見ても言葉の表し方で印象が違う。 ・声に出すと繰り返しがよく分かる。 ・友達の考えを聞いてもう一度その行を読みたい。	児童は教科書の詩から気になる語を選び、言葉そのものと想像した内容を別に記録する。題名や本文から確かめられることを根拠にし、語り手について未確認の人物設定を付けない。 想定するつまずき：詩の言葉を見ずに一般的な感想だけを書く、語り手と作者を同一人物として決めつける。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 詩の言葉を基に様子や気持ちを想像し、感じたことの理由を捉えている。（発言と学習記録） ◎知① 内容のまとまりや構成を意識して音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）（使った言葉・音読や表記の確認）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達の考えを聞いてもう一度その行を読みたい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「どの言葉から、どんな様子や気持ちを想像しましたか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、

本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまずきやすい所と手当て

つまずきとして、詩の言葉を見ずに一般的な感想だけを書く、語り手と作者を同一人物として決めつける。この場合は、児童は教科書の詩から気になる語を選び、言葉そのものと想像した内容を別に記録する。題名や本文から確かめられることを根拠にし、語り手について未確認の人物設定を付けない。おおむね満足できる状況は、詩の言葉を基に様子や気持ちを想像し、感じたことの理由を捉えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

着目した言葉の箇所、想像した様子、そう考えた理由、交流して付け加えた考え。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時間・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（3年）「3年上巻」106行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/7ff6b471-db8d-470a-968a-a9899624022a/368）

／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

